

令和元年度 第1回川口市立グリーンセンター活性化基本計画検討委員会 議事録

日時 令和元年7月31日(水) 9時30分～11時30分

場所 川口市立グリーンセンター大集会堂ホール

出席者 奥ノ木市長

(委員) 土屋委員長 山岡副委員長
廣常委員 飯塚委員 石田委員 田村高浩委員
會田委員 田村真実委員 小林委員 本橋委員
(事務局) 中村所長 森田副所長
二見係長 峯岸係長 岩谷係長
長島主査 鈴木主査 浅倉主査 島野主任 関根主事
(運営支援) 日本公園緑地協会

議事録

- 1 開会
- 2 委嘱書交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員の紹介
- 5 委員長、副委員長の互選
- 6 委員長、副委員長の挨拶
- 7 議事

(1) 資料説明

ア 活性化事業の目的について

グリーンセンターは、開園から52年が経過し、施設の老朽化や園路の地盤沈下、インフラの不具合等が顕著に現われてきている。また近年、多様化される社会的なニーズや公園環境の変化が見られるため、本格的な大改修を進めるべく、本年度、グリーンセンター活性化基本計画の策定を行うことになった。今後に向けた各施設の機能や役割などの基本コンセプトを明確にし、園全体を適切に更新するための中長期的な整備方針や、市内事業者を最大限に活かす運営方針の策定、また早期に改修を進めるなどスピード感を持った事業スケジュールの設定を行う。

イ 計画地の現状と課題について

公共交通機関からのアクセスが悪く、来園者の多くは、車での利用となっている。園内の建物全般が老朽化し、安全面に不安があり、バリアフリーにも対応していない。給排水や電気などのインフラ設備も耐用年数を過ぎ、更新が急務となっている。来園者の多くがわんぱく広場を利用しており、子育て世代が主な来園者となっている。現況の特性として、正門からわんぱく広場へと向かう動線が、最も利用頻度が高く、正門から左へ向かった北側のエリアから林間教室、大集会堂へと向かう動線の利用頻度が低い。主要施設に関しては、大集会堂や大温室は老朽化がみられ、さ

らにバリアフリーにも対応していない。第2、3駐車場については、収容台数は多いがアクセスが悪く、歩道も狭いため、安全面に問題がある。流水プール場については、利用できる季節が限定的となっており、施設も老朽化している。

ウ 目標とする将来像について

植物園として果たすべき役割やグリーンセンターの設置目的を念頭に、今後担っていく役割については、植物の魅力やおもしろさに「であう」きっかけをつくり、植物の知識を「まなぶ」ことだけでなく、植物に「ふれあい」ながら「あそぶ」場を作り出し、レクリエーション施設のさらなる充実を図りつつ、川口市の植木産業を存分に活かして「いこい」の植物空間を作り出すこと。ターゲットについては、「子育て世代」をメインターゲットと設定する。子育て世代に向けた魅力ある空間を提供することは、複数にまたがる世代にサービス提供することにつながり、それだけ多くの来園者を呼び込むことができる。さらには、子ども世代が成長して親の世代になってから、また、親世代がシニア世代になってからも慣れ親しんだ自然豊かな空間として再訪してもらえることで、持続性のある来園のサイクルを生み出すことにつながる。完成時の目標来園者数としては、ここ2～3年の入園者数は約47万人であるが、新規施設や新規事業による魅力向上に加え、ターゲットを明確にした効果的なサービスを提供し、年間100万人を目標として、日本一の植物園を目指す。ゾーニング及び動線計画(案)として、新たな入園ゲート「西ゲート」を計画し、第2・第3駐車場からの利便性を向上させ、ゲート脇には管理事務所と併設して園内の様々な情報を提供するビジターセンターを設置する。屋内植物展示ゾーンでは、屋内複合型植物展示施設などを配置し、景観的なランドマークとする。このゾーンに含まれる大集会堂は老朽化が進み、利用頻度が低く、バリアフリーにも対応していないことから、更新する計画となっている。自然体験アスレチックゾーンでは、アスレチックだけでなく、「泥遊び」など直接自然に触れられる体験を重視した施設なども考えている。屋外植物展示ゾーンでは、四季折々の植物を集約し栽培・展示し、地元造園業者と連携し、川口の緑化産業の伝統と技術をアピールする場にしたい。流水プール場については、施設が老朽化し、維持補修が困難であり、安全面にも不安があるため、駐車場へ変更する案となっている。その代替施設として、わんぱく広場内に長い期間利用できる親水広場を計画している。アイススケートについては、これまでどおり仮設リンクを設置し駐車場などで継続していく。新たなゲートをつくり、魅力ある施設を園内に効果的にゾーニングすることにより、グリーンセンター全体を回遊する形に変化すると考えている。

(2) 討 議

【質疑応答】

(委 員) この委員会に対して求められているもの、何を期待されて今後のグリーンセンターの基本計画に活かされていくのか。川口市に対して、意見を述べていくというようなイメージでよいのか。

(事務局) グリーンセンターの今後50年に向けてのあるべき姿、これまでのように市民の憩いの場として、皆から愛される施設として検討していただきたい。その中で、どのような公園がいいのか、どんな施設を配置するのか、運営方法などについても、この委員会で意見や助言、提案をいただき基本計画の策定を進めていきたいと考えている。

(委 員) 駐車場の台数やアクセスについて現時点で検討されているか。

(事務局) 年間目標入園者数を100万人と想定したとき、現在の駐車場台数では足りなくなる。例えば、老朽化した流水プール場を廃止して駐車場を拡充するという 것도検討していかなければならない。また、アクセスについても渋滞等がおきにくい進入方法などを考えていきたい。

(委 員) 幼稚園などの遠足で来る中型バスまでは、現在は正門のロータリーで乗降できる。しかし、大型バスは駐車場から徒歩となる。バスに限らず、車で来たときの正門までのアクセスが悪く、特に子どもを歩かせる家庭にはかなりの負担があるのでは。

(事務局) 第2・3駐車場から正門に行くルートは、比較的交通量の多い道路で歩道も狭いため、園内へのアクセスが不十分だと考えている。本計画の中で、安全対策や利便性を考慮した新たなゲート「西ゲート」の配置を計画している。

(委 員) 園内で雨をしのげる場所がない。雨天時でも屋内で過ごせるような施設やエリアを考えているのか。

(事務局) 現状、雨天時の施設は温室しかない。それも課題の一つとなっている。新たな計画では、屋内植物展示ゾーンが雨天時でも過ごせる施設と考えている。そこでは植物を学んだり観賞したり、ワークショップなどの体験場所がある全天候型の施設を検討していく。

(委 員) 市内に新たにイイナパーク川口ができて、花と緑の振興センター、川口緑化センター、赤山城址公園などと上手く連携できないか。

(事務局) イイナパーク川口や花と緑の振興センター、川口緑化センターとの連携は、集客力のあるグリーンセンターが本市の緑化普及の中心的な役割を担

い、施設間の回遊性の向上、更なる緑化の普及を図るため様々な機能を有した関連施設との共存を検討していきたい。

(委員) 駐車場について、特に夏場の来園者が少ない時期は、拡充しても、使わないスペースが大量にできてしまうのではないか

(事務局) 年間目標入園者数100万人を想定したとき、必要とする駐車場台数を試算すると、現在の630台ではどうしても足りない。夏場でも冬場でも過ごせる屋内施設等の充実を図るなど、駐車場の空きスペース対策の検討を行っていく。

(委員) 一日遊べる公園となると、食事ができる場所や植木をはじめとした農産物が購入できる施設を充実してもらいたい。

(事務局) 食事場所等が不足していることは課題として認識している。休憩できるカフェなどを充実することや、農産物等の購入施設については、緑化センターやJAさいたまなどと調整し検討していく。

(委員) 駐車台数を増やすなら、立体駐車場を作ることも考えられるが。

(事務局) グリーンセンターは広域避難場所としての機能も備えているため、災害時には、物資の集積等、防災拠点となることから立体化の可能性が低いと思われる。一方で、災害時には立体駐車場にしておくことで屋根代わりとなり有効という見方もあり、担当部局と調整し検討していく。同時に、駐車場については、民間活用による運営も検討していく。

(委員) 都市公園法が改正され、公園内での民間事業者による収益事業の一部が公園の再整備や維持管理にあてることができるようになった。そのような公園の持続的運営を担保することも可能になってきている。また、全国にある公園は、都市計画的な公園部局が管轄しているところが多いが、ここグリーンセンターは産業振興の観点から経済部に属している。その利点を活かし、公民連携する場合において、上手に民間活用することで、公園の活性化が図れるなど、公が継続的に維持経費を出すのではなく抑制することもできる。そのようなプロセスも計画に盛り込むことが、地域の産業振興、緑化普及に繋がるのではないか。

(事務局) 集客はもちろんのこと収益を見込める施設を検討していく中で、民間が参入できるような仕組みを検討している。その前段として、サウンディングの市場調査等を予定している。まずは、市内業者を優先にと考えているが、市外も含めて幅広く民間のアイデアや、参入条件などのヒアリング調査をしていきたいと考えている。

【意見交換】

- (委員) 年間入園者数日本一の植物園を目指すということは、近隣の住人としては、非常に夢をいただけるなど感じている。また、地域振興として川口は安行という植木の産地があり、緑化の普及という観点は非常に良いことではないかと思う。川口市の中で、グリーンセンターはほぼ中央に位置し、都心からのアクセスもよい場所なので、今後の50年に向けて意味のある改修をすすめていただきたい。
- (委員) 市内には大型観光バスの夜間駐車施設がない。遠方からイベント（物産展やスポーツ大会など）で来て、駅周辺のビジネスホテルに泊まるが、大型バスの駐車場がないとの問い合わせがあるので、そのようなときにグリーンセンターの駐車場を活用できるよう要望する。
- (委員) 他市から遠足で来られている人たちがたくさんいて、市内にいとグリーンセンターの魅力になかなか気がつかない。他市周辺から見るとグリーンセンターに魅力を感じて足を運んできてきていると思うので、その魅力はしっかりと残しながら、改修されることを期待している。
- (委員) 緑化センターや花と緑の振興センターなど、地域の連携は重要であるが、一方でそれぞれの設立意義が別々にあることも考えた方がよい。また、様々な公園や同種の施設がどんな事をしているかという情報も極めて重要である。入園料等が有料か無料かは重要な問題であり、その施設でどうしているか、目的は何かなどを今一度整理していくべきだと思う。
- (委員) メインターゲットが子育て世代で、持続的サイクルを作りたいという説明が事務局からあった。ハード部分は非常にお金のかかるところだが、やはり入園者をどう増やすかに尽きると思う。自分や子ども達が、また来たいなと思えるような施設にするにはどうしたらいいかということ議論していきたい。
- (委員) わんぱく広場が、なぜ一番利用度が高くなっているかということを考えていったほうがよい。利用度が高いから人気のある場所と捉えるよりは、他に魅力がないからそこに行くだけという見方もできる。それを念頭に、園内各所に魅力ある施設を考えていったほうがよい。
- (委員) 目標来園者数100万人ということに関して、どのぐらいの範囲の方が来園する想定なのか。誘致圏はどう検討されているのか。例えば、東京の

北部ぐらいまでとか、おおよそ500万人とか。最近は単身世帯が増えていて、子どものいる世帯は少ない。どういう所から来てもらうと100万人になるのかということをしっかり検討したほうがいいかと思う。

(委員) 委員の方々の話を聞いていて、現状でもいい所、評価の高い面もかなりあるような気がしている。そういう面をいかに継承していくかというところが、大事かと思う。新たなグリーンセンターの役割として、“つなぐ”という言葉で、いい所を継承していくことも、検討していきたいと思う。シニア世代、あるいは周辺の高齢者施設からも来ていただくならば、公共交通機関の整備なども併せて検討する必要があると思う。

(委員) 新しいゲートが計画されるということで、多くの駐車場利用者はそのゲートを利用すると思うが、その場合、今の正門の役割がなくなってしまうのかなと思う。例えば、周辺の施設へ行けるバスターミナル的な役割などを検討してもよいと思う。

(委員) 子育て世代が、実際どんな風に利用するのか考えると、朝おにぎりを作り、それを持って遊びに出かける。着いてから、シートを敷いておにぎりを食べ、その後、遊具で遊ぶ。園内で一通り遊んで疲れたら、夕方にショッピングセンターに寄り、夕食を食べて帰ることが、イメージされる週末の過ごし方だが、飲食の施設に関しては、必ずしもグリーンセンターで全て完結する必要はないと思う。そういう周辺の施設も含めて、飲食の施設は、どのように提供していけばよいか検討すればいいと思う。

(委員) グリーンセンターの農業の振興について、植木産業にこだわらず、業としての農業ではなくて、もう少し幅広い文化ではないか。農業ではない農、農は文化、カルチャーである。そのイメージで“農”。「農の普及」をビジョンに加えていけばいいと思う。